

令和8年度宮崎大学一般選抜 国語〔出題の意図〕

【一】(随筆)

高等学校の共通必修科目の教育課程で身に付けた思考力・判断力・表現力を主な評価の対象とする。また、情景描写や登場人物の心境を的確に捉えて決められた字数内で説明する力や本文全体の趣旨を捉えて表現する力についても評価の観点とする。

評価する解答は一つに限定せず、別解答を設けたり、重要な語句の有無などを採点基準にしたりして適宜に対応している。

なお、解答の文章については、以下の点を評価する。

- ・ 問題文の内容を叙述に基づいて正確に読み取っているか。
- ・ 物語の展開の中で場面の役割を理解して、その意味を考察しているか。
- ・ 作品全体を通して描かれている趣旨を読み取り、設問の意図に沿って的確に表現しているか。
- ・ 「主語・述語」がきちんと呼応した文章になっているか。
- ・ 誤字・脱字がないか、など。

【二】

○(問題文設定の意図) 【問題文A】の評論文を読解することで、伝統的言語文化である和歌の表現や構造について理解を深める。また平安時代における貴族生活において和歌がどのように活用されたかを【問題文B】の古文を読解することで具体的に理解できる構成の現代文・古文融合問題としている。読解した情報を他の文章を読む際に活かすことができる思考力・判断力を求めるとともに、古典における基本的な知識を踏まえながら読解し解答を論述する文章表現力を問う総合的な設問としている。

■問題文A

問題文Aは、『古今和歌集』における恋歌のさまざまな〈型〉について例示しながら論じている。問題文の内容に即して、「恋の始まり」を示す和歌の言葉や、物象と心情表現との結びつき、「人」という言葉の二重性とその理由を読み取り、既習知識を活用しながら分かりやすく説明することが求められる。

問1 問題文の内容や論理の展開について叙述を基に的確に捉え、「恋の始まり」を示す言葉を和歌から抜き出し、平安朝の人々の恋のあり方について説明できるかどうかを問う。

問2 既習知識の「仮名序」を問題文に関連づけながら、「心情表現」と「物象」とを結びつける理由について分かりやすく説明できるかどうかを問う。

問3 「人」という言葉の二重性とその理由について、問題文の前後の内容を関係づけながら分かりやすく説明できるかどうかを問う。

■問題文B

問4 『蜻蛉日記』が平安朝女流日記文学の先駆けで、貴族の「通い婚」という結婚生活における夫への苦悩を綴った作品である文学史的な知識を解答の前提として求めている。また和歌や古文における「人」という表現が誰を指すかという解釈上の重要な鍵を【問題文A】で読解したと関連させながら、日記本文や和歌について古典常識となる語（「宿直」「ひぐらし」「驚く」）を理解しつつ説明できる思考力と文章表現力を診るという意図の問題である。

問5 和歌の基本構造について【問題文A】で読解したことに関連させて、貴族の結婚生活が赤裸々に語られている日記文学にある和歌に応用して表現構造を踏まえて解釈ができる思考・判断・表現力を診る意図の問題である。

問6 古文読解に必須の「世」という重要単語の意味や、平安貴族の結婚生活についてを背景知識として踏まえ、和歌と日記本文の双方からの情報を活用し、文脈を適切に把握するとともに作者が語りたことを理解し表現する力を診る意図の問題である。

【三】

漢文に関する基本的な語法や知識があるかどうか、漢文を読解する力があるかどうかを問う。解答例については、ここに示す表記に限るものではありません。

問1 傍線①②の訓読を送り仮名まで含めてひらがなで答えよ。現代仮名遣いでも構わない。

- ① (そにゆきて) ② (これをいかんせん)

出題意図 漢文の基本点な訓読を理解しているかを問う。

問2 傍線③王の回答「已之」を現代語訳せよ。

また、「已之」と答えた理由を説明せよ。

王の回答 (やめさせる)

その理由 (裁判長が、その部下の裁判に従う役人達を、よく治めてゆくことができなかつたため)

出題意図 文章を読み解く力を試す。人間関係を捉え会話の内容を把握する。

問3 傍線④「王顧左右而言他」から読み取れる王の心情を本文の様子を踏まえて述べよ。

(答えに窮して、あたりを見回して本題とは別のことを言ってしまうかそうとする気持ち)

出題意図 弁論術の巧みさを読み取ることができたかを現代語で適切に表現できる力を問う。